

証券市場新聞

1 第137号

日経平均株価

2万2597円35銭

▲409円39銭(前日比)

TOPIX

1730.07

▲20.39(前日比)

2018
7/16
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6F

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



18年後半のテーマを探る

災害対策や電子部品、ゲームなど

早いもので2018年も折り返し地点を通過し年後半へ突入した。この数カ月でトランプ大統領による米国の輸入関税問題が株式市場ではリスクとして認識され、米中貿易戦争への懸念から波乱の相場展開となっている。一旦沈静化しても米国の中間選挙までは予断を許さない状況が続くと見られることから、物色の方向性も内需の比重を高めるなどこれまでとは違った戦略が必要になるかも知れない。年後半の注目テーマと関連銘柄をピックアップしてみた。

これまでと違う戦略必要に



6月18日発生の大
阪北部地震や7月5

日から発生した西日
本から東日本にかけ

豊富な実績を誇る日
本基礎技術(191

ての観測史上最大の豪雨を受けて、災害対策関連が注目を集めている。今回の地震と水害は都市部で発生、被害が甚大になれば国全体に悪影響を及ぼすことが予想される。地盤改良などで豪雨災害の復旧も重要なテーマだ

2次中堅でマンホールからライン導水ブルックへ製品展開するイトーヨーギョー(5287)などが注目される。電子部品関連は米国の関税問題などによる不安で売られたが、9月の恒例イベントとなったアップルの新製品発表会で今年も関心を集める

村田製作所(6981)や電子部品メーカーが物色される。アップルは端末製造を中国企業が請け負

ことになろう。昨年は高級端末のiPhone X発売に賛否両論が巻き起こった。今年も、低価格端末のiPhone SEの新型発表も噂されているが、その品納入では

入っていることから、トランプの対中政策の影響も気になるところだ。

長らく株価が低迷している任天堂(7974)は9月開催の「東京ゲームショウ2018」に初出展する。ソニー(6758)を含めて新たな材料が表面化する可能性があるだけに、それを契機にゲーム関連が見直される期待がある。

日経平均日足チャート



企業観察

江崎グリコ (2206)

選択と集中で競争力強化

江崎グリコ(2206)は中期経営計画で最終年度の2021年3月期に連結営業利益300億円以上(18年3月期203億7700万円)という意欲的な目標を掲げ、成長投資を実行している。ROE10%以上と効率化に重点を置き、配当性向25%以上を目指す。株主重視の姿勢も明確にした。基本方針は経営資源の選択と集中による競争力の強化で、原材料コストアップと投資負担を吸収して収益を拡大する構え。「ポツキ」をはじめとした高収益のロングセラーブランドと脂肪や糖の吸収を抑える食物繊維を配合したチ

中期課題取組みの成果年度後半にも

ヨーレイト「LIBERA(リベラ)」など機能性食品を拡大。一方で生産体制の統廃合により生産性を高めるとともに、重点商品に生産品目を絞り込んでいく。中国ではネット販売、タイやインドネシアではアイスクリームの生産・販売、米国では量販店を通じて基幹ブランドの販売を進めるなど、本格的な海外市場開拓に向けた基盤づくりを始めた。19年3月期は先行投資増で結営業利益連結営業利益180億円(前期比11・7%減)を見込むが、「年度後半にも中期課題への取り込みの成果が表面化する」(会社側)。

12日、ホギメデイカル(3593)が急落、ストップ安まで売られ、年初来安値を更新した。19年3月期の第1四半期(4~6月)連結決算を発表、売上高は90億5300万円(前年同期比1・2%減)、営業利益は12億4800万円(同17・5%減)、純利益は8億9800万円(同65・5%減)と大幅な減益となった。キ

ット製品では、「オペラマスター」契約医療機関の立上げの遅れによる新規販売不足や他社との競争などにより伸びが鈍化している。通期は売上高387億7000万円(前期比5・0%増)、営業利益59億2000万円(同12・3%増)、純利益54億5000万円(同3・6%増)と従来見通しを据え

キリン堂HD続騰 1Q57%営業増益を好感

500万円(前年同) 期比3・4%増) 営業利益は3億900万円(同56・9%増)と大幅な増益となったことが好感

キリン堂HDは11日、増収による売上総利益高の増加と、販売促進施策の一部の見直しや、ヘルス&ビューティケア商品のカウんセリ

12日、スター精密(7718)が5連騰(7718)が5連騰。18年12月期の連結業績予想を修正、売上高を560億円から593億円(前期比2・4%減)へ、営業利益を69億円から80億円(同28・8%増)へ、純利益を54億円から60億円(同3・8%増)へ引き上げた。特機が欧米市場で伸び悩んだものの、工作機械は



スター精密5連騰

12日、スター精密(7718)が5連騰。18年12月期の連結業績予想を修正、売上高を560億円から593億円(前期比2・4%減)へ、営業利益を69億円から80億円(同28・8%増)へ、純利益を54億円から60億円(同3・8%増)へ引き上げた。特機が欧米市場で伸び悩んだものの、工作機械は

転ばぬ先のテクニカル

サマーラリー

先週の株式市場は劇的な変化週となりました。対中関税が実施されるところで悪材料出尽くしとなりましたが、10日には追加関税との報道で急落。しかし、そこが押し目買い好機となり週末は大幅高。日経平均は25日線を回復して参りました。先週末までは75日線や200日線を割り込み、中・長期トレンドが下降へと移行したように思われましたが、一気に回復したことで流れは大きく変化しました。

結局、52週線がサポートした形で13週、26週線も回復してきたことで、年初来高値更新に向けたサマーラリー入りと考えます。ここより8月~9月に向けてアベノミクス最後のお祭り相場が展開されるのではないのでしょうか。そしてその主役は1月高値期日を通じた主力大型株に分があると思われれます。上値は2万5072円~2万6784円がターゲットです。 日々勇太郎

ホギメデイ18%営業減益

年後半の上昇より現実味

腰を据えた割安株投資を

米中貿易摩擦の拡大により世界経済の先行きに懸念が広がる中、足元の株式市場の動揺は限定的である。全体の方向感がはっきりしないものの、日経平均採用銘柄のうちソフトバンクが11連騰、イーザイが2日連続ストップ高になるなど個別株物色では活況を呈している。人気が偏った結果、バリュウ面からは売られ過ぎの銘柄が多く見られる。本格反騰にはしばらく時間を要するとしても、ここからの過度な弱気は禁物であろう。

光世証券 取締役 西川 雅博 氏

ドル円で年初の水準112円台後半まで円安が進んでいるのは大きな支援材料だ。一時期より株価との相関関係が薄れているのは気になるが、今期の想定レート105〜110円のゾーンから大きく円安に振れている現状は、今後の企業業績予想に相当ポジティブに働くはずだ。また、ドル円の長期波動を見た場合、5年、2年、1年の各移動平均が110円附近に収斂していることに注目している。最近のドル高円安が三角保ち合い放れから新しいトレンドに入る兆しもある。円安の流れが明確になれば、株価との相関関係が復活し、年後半の日本株上昇シナリオはより現実味を増すであろう。



オイルマネーの回帰など一部長期資金の流入が取り沙汰され、外国人投資家の日本株投資の姿勢に変化が見られるようだ。グローバルマネーのダイナミズムやシステム売買など短期の値動きに一喜一憂しがちだが、ここは腰を据えた割安株投資に取り組む局面であろう。最近軟調なバリュウ株のうち9月

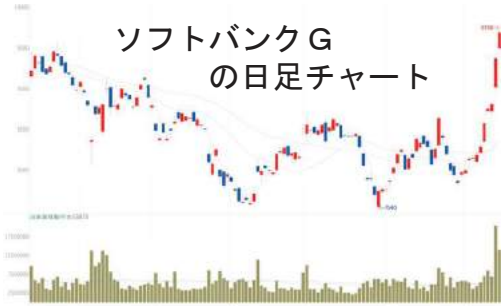
相場展望

中間決算の高配当銘柄のリバウンドを狙いたい。

ソフトバンクG 続騰

米大手ファンド10億ドル分取得

12日、ソフトバンクグループ(9984)が続騰。米大手ファンドのタイガー・グローバル・マネジメントが同社株式を10億ドル(約1100億円)分取得したことが伝わった。タイガーは現株価についてアリババなどの資産価値上昇を反映しておらず、純資産を大きく下回っていると指摘。同社の



ソフトバンクG
の日足チャート

ファストリ通期計画超過

週末13日、ファーストリテイリング(9983)が続騰、18年8月期第3四半期の連結決算は、営業利益2388億9700万円(前年同期比32・3%増)と通期計画の2250億円(前期比27・5%増)を超過、市場コンセンサスの2300億円も上回った。通期予想は据え置いたが猛暑による夏物衣料の販売拡大も期待され、大幅な収益上振れ観測が、

買い気を盛り上げた。13日、安川電機(6506)が朝高のあと反落。19年2月期第1四半期の連結決算を発表、営業利益は171億9000万円(前年同期比30・0%増)、と大幅な増益となったが、モーションコントロールが若干減額されたことをネガティブ視。みずほ証券では「ロボットの拡販でサーボの調整をどこまで吸収できるか」とし、「貿易問題の影響は出ないかが今後の焦点になる」と指摘している。

今週の動意銘柄

最高品質海苔など新製品で攻勢

銘柄探究



記者の目で企業実態を解析



トマト&豆乳仕立て野菜たっぷりスープ



大森屋男梅混ぜご飯の素

製品に仕上げています。食物栄養学の知識を活かした

必要量の3分の1の野菜が1食で摂れ、女性に不足しがちな鉄分も1日に必要な量の2分の1が1食で摂れるなど、

女子大学栄養学科の学生と合計5回の座談会を実施。1日

1食69kcal

1日に必要な量の野菜 1/3の野菜 1/2の鉄分

トマト&豆乳仕立て野菜たっぷりスープ

女子学生と共同開発

武庫川女子大学

栄養機能食品(鉄)

混ぜご飯

手塩にかけた心にしみる梅えり味

男梅

混ぜご飯

梅を軸とした味わい

内容量 25g

これに加えて魅力ある新製品の投入が寄与し、18年9月期は第2四半期累計で連結売上高は88億6000万円(前年同期比6.6%増)、営業利益2億5100万円(同2.4倍)と大幅増

のおいしい海苔「シリーズ。全

国の海苔の収穫量の約3%と希少性が高く、芳醇な香りとロド

けの良さ、旨味が強いのが特徴

の佐賀県産有明海産一番摘み原料のみを限定使用、最高品質の

海苔に仕上げています。板のり10枚タイプで標準小売価格(税抜)

男梅や武庫川女子大コラボ商品も

「男梅混ぜご飯」は16年に発売した「ゆず香る野菜たっぷりスープ」に続く武庫川女子大学栄養学科調理学研究室監修製品の第2弾。今回、新たなシリーズ品を投入すべく、武庫川

大森屋(2917)は加工のり製品での唯一の上場企業として、高いブランド力を誇る。稲野達郎社長は昨年6月1日付での就任から1年が経過し業績は順調に回復、斬新な新商品や高付加価値製品の投入で更なる飛躍が期待される。

大森屋 (2917)



稲野達郎社長

同社を取り巻く環境は原料海苔仕入価格の高騰という大きな逆風にさらされているが、コスト増を製品価格の値上げによりカバーするとともに、販売促進費を中心とした経費削減に注力。

なかで、「本当に美味しい海苔を食卓へ浸透させる」ことでブランド力をアップさせ更なる成長を目指している。

18年9月期の計画達成から、19年9月期に向けて4月2日から新たに投入したのが、「日本

益を達成した。稲野達郎社長は通期予想の売上高173億円(前期比3.8%増)、営業利益3億5000万円(同70.7%増)達成に自信を深める

10000円の価格設定で、食にこだわりのある50歳以上のシニア層をターゲットに販売を推進する。

主力の海苔製品に加えて8月10日からは「男梅混ぜご飯」と「トマト&豆乳仕立て野菜たっぷりスープ」も新たに発売する。

17年8月にノーベル製菓「男梅」とのコラボ商品「男梅ふりかけ」「男梅茶漬け」の2品の売上高合計は3億円を突破、当初計画の1.5倍のペースで進捗しており、「男梅混ぜご飯」はこれに続く製品。梅干し本来のガツンとしたしよっぱい旨さ、深い味わいが楽しめる混ぜご飯の素で、温かいご飯を混ぜ込むと、梅らしい色合いの彩がきれいなご飯になる。

潮流

米中貿易戦争の仕掛け

「ナバロ・ペーパー」基に軍事摩擦の側面

marKet / bAnk

バロ氏が書いた「ナバロ・ペーパー」に基づく。

トランプ氏はナバロ氏とウォール街の投資家だったウィルバー・ロス氏に依頼し、同文書をトランプ政権用に手直しさせた。「ナバロ・ペーパー」は、中国は最大のペテナーであり、米国にとって最大の貿易赤字国でもある。1947年から2001年までの米経済の平均成長率は3.5%。2002年以降は1.9%と低成長。その一因は2001年の中国による世界貿易機関(WTO)加盟だ。貿易の不正が続くなら、防御的な関税を課すといった内容である。

現在、ナバロ氏は大統領補佐官に、ロス氏は商務長官としてトランプ政権の通商政策を主導している。ただ、トランプ大統領の通商政策は過激さを増し、自動車の広範な輸入制限の検討にも着手するなど、「ナバロ・ペーパー」を超えて暴走している。トランプ大統領が中国のハイテク分野を目の敵にするのは、先端技術を軍事転用されるリスクがあるからだ。

アメリカ合衆国通商代表部(USTR)の報告

MTGの日足チャート



トランプ米大統領の過激な通商政策は2016年に元カリフォルニア大教授のピーター・ナ

書では、中国人民解放軍が主導してUSスチールやウエスチングハウスなど米企業にサイバー攻撃を仕掛け、ハイテク技術を盗み出していると暴露した。また、米アップルが持つ自動運転の技術情報を盗み、中国

のEVメーカーに持ち込もうとして元社員の中国人が逮捕された。

ナバロ氏は「長期的な貿易赤字の末に防衛産業を海外に移すことになれば、アメリカは広範な戦争で敗北を喫する」と警告している。トランプ大統領は安全保障と通商問題を天秤に掛けて各国と交渉するが、そこにはアメリカ産業の衰退が軍事力の弱体化につながるとの危機感がある。貿易問題を巡る米中の対立は軍事摩擦の側面もあるのだ。習近平国家主席が打ち出した産業政策「中国製造2025」に基づき、ハイテク産業の内製化を急ぐ中国の国家戦略に真っ向から対立することになる。一方、株式市場は米中貿易戦争など政治ショーであり、関税が引き上げられ、サプライチェーンへの懸念が意識されても、グローバルで経済危機など発生するリスクは無いと捉えている。

潮流銘柄はMTG(7806)、ブレインパッド(3655)、アトラ(6029)。



岡山憲史氏(株式会
社マーケットバンク代
表取締役)のプロフイ
ール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

株式市場には政治ショー

チャートから読む 騰落銘柄

モーニングスタ (4765)



6月26日の426円を底に適度な押し目を入れながら上昇、3月27日にザラ場で付けた433円や3月9日の434円を抜ければ、目先は2月23日の年初来高値472円を目指す動きが期待される。

駅探 (3646)



前月末の急騰のあと、25日移動平均を割ることなく出直り、年初来高値を更新。5日線、日足一目均衡表転換線も再び鋭角的な右肩上がりに転じ、2段上げ相場へ。噴き上げ局面に近い。

ヤクルト本社 (2267)



7000円割れで年初来安値を更新後も戻りは鈍い。44万株超の買い残が重石で、海外好調も薬価改定による医薬品の苦戦が懸念材料。2017年の4月安値の6000円トビ台まで下値のフシはない。

チヨダ (8185)



今2月期業績見通しの大幅下方修正受け急落、その後も戻る気配なく年初来安値圏で底這いが続く。日足、週足に続き月足も院展の方向で、急降下してくる5日線に上値を抑えられ、一段の下値模索も。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



ローツエ (6323)

今2月期通期は上ブレ期待

ローツエ(6323)の株
価は7月5日の年初来安値1
720円を底に出直る動きに
なってきた。好実態から50日
移動平均線突破から5月9日
の高値2718円を目指す動
きを期待したい。

19年2月期は7月10日に発
表された第1四半期(3ヶ月
決算で、連結売上高は69
億2800万円(前年同期比
34・7%減)と減収となった
ものの、営業利益では13億1
400万円(同35・3%増)
と大幅な増益を計上、進捗状
況から通期予想の売上高
363億6300万円
(前期比30・4%減)、営
業利益50億5700万円
(同19・4%増)
は上ブレ期待が
高まる。

3次元構造の
NANDフラッ
シユメモリーな
ど、生産拡大に
向けた設備投資
が積極的に行わ
れたことで、N
2ページ対応ウ
エハストツカ
などが拡大して
いる。(と)

N2ページ対応製品が拡大へ



浜松ホトニクス (6965)

次世代光学技術で業容変貌

浜松ホトニクス(6965)
は1カ月前におよぶ4600
円台での保ち合いを上放れ、
株式分割を考慮した最高値を
更新、青空相場に突入した。

次世代光学技術による業容
変貌へ期待が高まっており、
国内有力証券が相次いでレポ
ートを提出、目標株価を引き
上げている。画像診断装置は
世界全体で年率2%成長が予
想されるが、なかでもハイエ
ンドのPET、CT・PET、M
RIやデジタルX線のニーズ
は強く、PMT(光電子倍增管)
で高シェアを占め、MP
PC(光電子倍增機能を
持つ半導体)など独自の
高機能製品を持つ同社は
市場平均を大きく上回る成長が
続く見込み。

放射線医学総
合研究所開発の
ヘルメット型P
ET向けに加
え、「ハイパー
カミオカンデ」
プロジェクトで
も約5万本、2
00億円相当の
PMTを納入す
るといふ。(き)

「ハイエンド」分野で大型需要

※チャートは日足

高野恭壽の 株式情報

これでどや!!

ハイテクに円安の追風

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

7月第2週の東京市場は引き続き波乱の動きになりました。週初は米国による対中関税発動後のアク抜け感や米雇用統計で6月が予想より良い内容だったことを好感して日経平均は2万2300円台まで戻りましたが、その後トランプ米政権が中国製品で2000億ドル(約22兆円)への関税上乗せ措置を正式決定したことで、リスク回避の売りが再度優勢になり、11日には前場で一時下げ幅を450円超に広げました。

ドルの関税上乗せについて

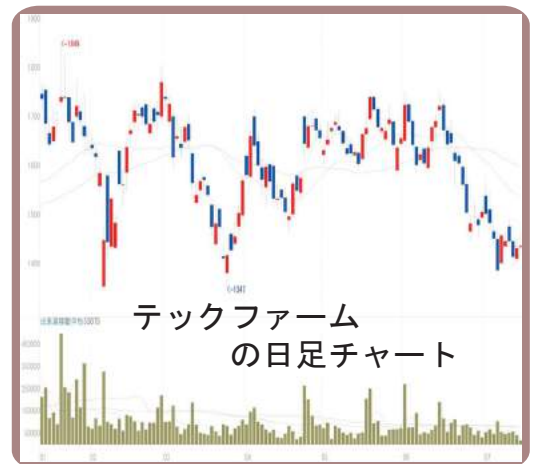
テックファーム決算に期待

見ていました。案の定、その日の後場からは戻しているうえ、その後のニューヨーク市場もダウで219ドル安で引けているものの、パニック売りにはなっていない。今後は中国による新たな報復措置の具体的な内容が待たれますが、中国から報復できる手段には限界があることから、過度に悲観売りを浴びることは無いと思っています。これまでにも指摘しましたように、日経平均では上値は2万3000円処、下値は2万1500円割れませんが、2万2000円を割れる場面では押し目買いのチャンスで問題ないと思っています。個別銘柄を選別するうえでは為替が1ドル112円台まで円安が進んだことが大きなポイントと見ています。7月下旬からは3月期決算企業の第1四半期(4~6月)決算が発表されますが、ハイテクを中心に輸出系企業にとっては明らかに上ブレ要因になります。米中貿易競争を懸念して上方修正しない企業も多いかも知れませんが、先行きアナリストから上方修正のレポートがでてくる可能性も高く、

は、かねてより噂されてきたことですから、これにより再度大きく売り直されることはない

決算内容と株価の位置を確認して仕込んでいきたいと思っています。村田製作所(6981)や太陽誘電(6976)などはその代表格ですから、高値から下押ししたところは買い場が来ると見ています。

この欄で紹介しておりますテックファーム(3625)は1日に再度1400円を割ってしまいました。この水準では底堅さを見せています。柱の受託開発は好採算案件の獲得が想定超となっており、6月決算が発表されれば、好業績から出直りは早いと見ています。



高野恭壽公式ホームページ

高野恭壽の株式市場情報
これでどや!!

<http://www.kabun-takano.com/>

毎日情報を配信中!



★ 日銀はETF買いで日経平均を支えており、外資もナイトセッションでは225先物を欧米市場と同時並行で売買しており、それ以外の指数の関心が薄れている。日経平均偏重の弊害がでてきている。新興企業と個人投資家の育成の意味合いからも、弊害を是正できないだろうか？



星野三太郎の株街往来

～日経平均偏重の弊害～

んだ程度だから、さほど下がっていない印象もあるが、新興については東証マザーズ指数で今年1月24日の1367ポイントの高値から一貫して下落し、直近で昨年9月以来の1000ポイント割れとなっており、今年が良いところが全く無い状況。普段はニュースでも日経平均の変動しか話題にならないから、指数が大暴落にならない限り気にならないが、久しぶりに自分自身の保有株の価格を見て驚いたという投資家も少なくないように思える。

トラ
ンプレショクによる6月上旬からの下げ相場でここへきて筆者のところに「何故、こんなに自分の保有株が下がるのか？」という知人からの電話が数件、鳴り響いた。日経平均については6月12日に2万3000円まで上昇して1500円程度下げ、7月第11週に2万1500円を割り込



Best of Show受賞!

「バイオハザード RE:2」

Game Critics Awards Best of E3 2018

カプコン

企業レター



バイオハザード RE2

カプコン(9697)のプレイステーション4、Xbox OneおよびPC向けゲーム「バイオハザード RE:2」が、全世界の大手ゲームメディアによる表彰制度であるGame Critics Best of E3 2018を受賞した。

「バイオハザード」シリーズは、1996年の第1作発売以降、シリーズ累計販売本数8300万本(2018年3月31日時点)を超える同社の代

表的なコンテンツ。「バイオハザード RE:2」は、シリーズ歴代4位の累計販売本数496万本を記録した「バイオハザード2」を最新の開発環境を駆使し現世代機向けに一新から再構築した作品で、19年1月の発売を予定している。Game Critics Best of E3は、GameSpotやIGNをはじめとする、50を超える全世界の大手ゲームメディアが審査する表彰制度。「バイオハザード RE:2」は今年のE3(Electronic Entertainment Expo)でプレイアブル出展されたBest of Show部門において受賞の栄誉に輝いた。Best of Show部門を日本のサードパーティが受賞するのは、同表彰制度が始まって以来初の快挙。

Game Critics Best of E3は、GameSpotやIGNをはじめとする、50を超える全世界の大手ゲームメディアが審査する表彰制度。「バイオハザード RE:2」は今年のE3(Electronic Entertainment Expo)でプレイアブル出展されたBest of Show部門において受賞の栄誉に輝いた。Best of Show部門を日本のサードパーティが受賞するのは、同表彰制度が始まって以来初の快挙。

今週は値固めの動き

ここからの上値は出来高必要

52円35銭と前日比約2.6%の戻りにより6月12日の高値2万3011円57銭から7月5日の安値2万1140円95銭の下げ幅約11.5%の戻りを演じ出した。「円安」である。上値抵抗ラインであった1140円をあっさり抜き、1200円後半の推移と円高を替にしている。

先週の乱高下平均は6日間で約650円上昇したが、11日にはトランプ大統領が中国に対し追加関税を公表し、一時45%の下落した。その後落ち着きを取り戻し、12日には約300円上昇し、13日のSQ値では2万2400円に回復した。この上値は出来高必要

先週の修正が入り、今後しばらくは円安基調になるの見方から企業業績への期待もあり、日本株が買戻されているようである。また、需給面でも空売り比率が3日には47.81%まで上昇、ピークであった3月の50%以来の高さにある。株価はその後約20%上昇したこともあり、5日の上値を迫るのは難しいと

敏腕先物トレーラー
ハチロクの裏話

今週のスケジュール

- 16日 中国4-6月期GDP、中国6月鉱工業生産、中国6月小売売上高、中国6月都市部固定資産投資 (11:00)
米6月小売売上高、米7月NY連銀製造業景況指数 (21:30)
2018年分の路線価公表予定
- 17日 6月首都圏新規マンション発売 (13:00)
米6月鉱工業生産・設備稼働率 (22:15)
米5月製造業受注 (23:00)
- 18日 6月訪日外客数 (16:00)
6月住宅着工件数 (21:30)
- 19日 6月貿易統計 (8:50)
カジノを含む統合型リゾート (IR) 実施法案が参院で採決の可能性
米6月CB景気先行総合指数 (23:00)
- 20日 6月消費者物価指数 (8:30)
5月全産業活動指数 (13:30)

米中貿易摩擦が過熱する中で上値を迫るのは難しいと思われる。今週は値固めの動きで、上値はボリンジャーバンドの△2σの2万2800円の△2σの2万2800円の△2σの2万2800円の下値は75日移動平均線の2万2000円、その下は転換線の2万2000円



好決算を発表したファーストリテイリングが大幅高に買われる一方、安川電機は朝高のあとマイナスに沈んだ。ACサーボの減速がネガティブ視されたのと、だが、モーションコントロール、ロボットを含めトータル好調で大幅最高益更新が続く。円安が進み、中国関連株が総じて買い戻されるなかでの弱い動きだけに気になった。設備投資関連の成長株として年始まで相場全体をけん引し、高値期日が明けた安川電機の値動きの鈍さは、今後の物色の方向を示唆しているのかもしれない。

編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。